

印刷とレリーフ(半立体)による ビジュアルアートの表現研究

芸術学部
ビジュアルデザイン学科
教授

三枝 孝司



研究シーズの紹介

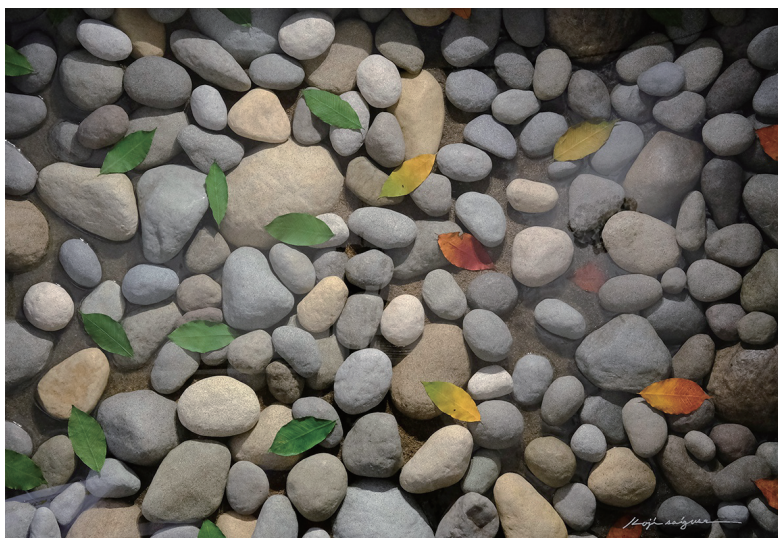
本研究の目的は、スチレンボードによる凸版表現の研究と和紙や楮によるレリーフ表現の研究であり、自身もこの技法により現在、研究・制作を進めているが、技術的な問題点や表現内容の改善点が見られる。本研究ではそれらの問題点を改善するため、デジタル表現の併用実験を行い、最も効果的な活用方法を探り、表現の幅の拡大と完成度を高めたい。ま

た、それぞれのデジタル表現の併用実験により、版画作品制作及びレリーフ作品制作を総合的に行うことにより、独自性のある表現の展開と創造性を高めていくことが、具体的な目標になる。



芸術表現技術

- 独自の印刷表現やレリーフによるがビジュアルアート表現が可能です。
- デジタルとアナログを併用する技術で、教育に応用できる効果があります。



期待される活用シーン

- 独創性のある表現方法を活用したい。
- ビジュアルで空間を演出したい。



ビジュアルアート作品として様々なメディアに活用が可能。



- 紙を使ったエコロジーな新しい表現をワークショップに応用したい。



楮や和紙以外にも、不要になった紙を再利用することも可能で、SDGsな取り組みが考えられる



その他の研究テーマ

- ・木版画の応用に関する研究
- ・ヘイター技法を応用した版表現の研究